

## 交付運用報告書

## 受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
当ファンドは世界の転換社債等（転換社債の他、交換可能証券、ワラント付債券、転換権付債券証券を含みます。）を実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の中期的な成長を目指して運用を行います。なお、実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。当期におきましても、当該運用方針に沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。  
引き続き、一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBS世界CBファンド  
米ドルヘッジコース

追加型投信／内外／その他資産（転換社債）

第13期（決算日2024年8月5日）  
作成対象期間（2023年8月8日～2024年8月5日）

第13期末（2024年8月5日）	
基準価額	42,328円
純資産総額	5,636百万円
騰落率*	7.0%
分配金合計	0円

※騰落率は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

## UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワー  
<お問い合わせ先> 投信営業部 03-5293-3700  
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く)<http://www.ubs.com/japanfunds>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供することが定められております。運用報告書（全体版）は以下の方法でご覧いただけます。

&lt;閲覧方法&gt;

上記の委託会社のホームページアドレス⇒「ファンド検索」にファンド名（日経新聞掲載名でも可）を入力⇒表示されたリストの「ファンド名」欄にある当該ファンドの名称をクリック⇒「運用報告書（全体版）」のタブをクリック

なお、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。書面をご希望される場合には、販売会社までお問い合わせください。

©UBS2024。キーンシボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

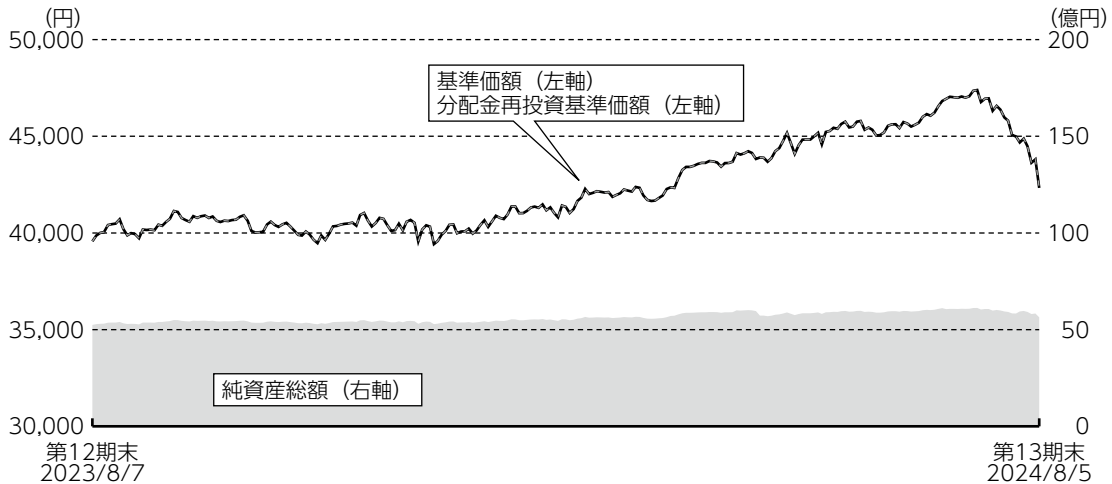
UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

## 運用経過

## 基準価額等の推移について

(2023年8月7日～2024年8月5日)



第13期首：39,569円

第13期末：42,328円 (既払分配金 0円)

騰落率： 7.0% (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で2,759円値上がりしました。なお、基準価額の騰落率は+7.0%となりました。

## 基準価額の主な変動要因

当期、当ファンドの基準価額の主な上昇要因は、組入れていたマザーファンドの基準価額が値上がりしたことです。マザーファンドの基準価額の主な上昇要因は、UBS (Lux) ボンド・シキャプーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ) において組入れた転換社債などの値上がりや、為替変動 (米ドル高/円安) によるプラス (上昇) 要因が、マイナス要因を上回ったためです。

## 1万口当たりの費用明細

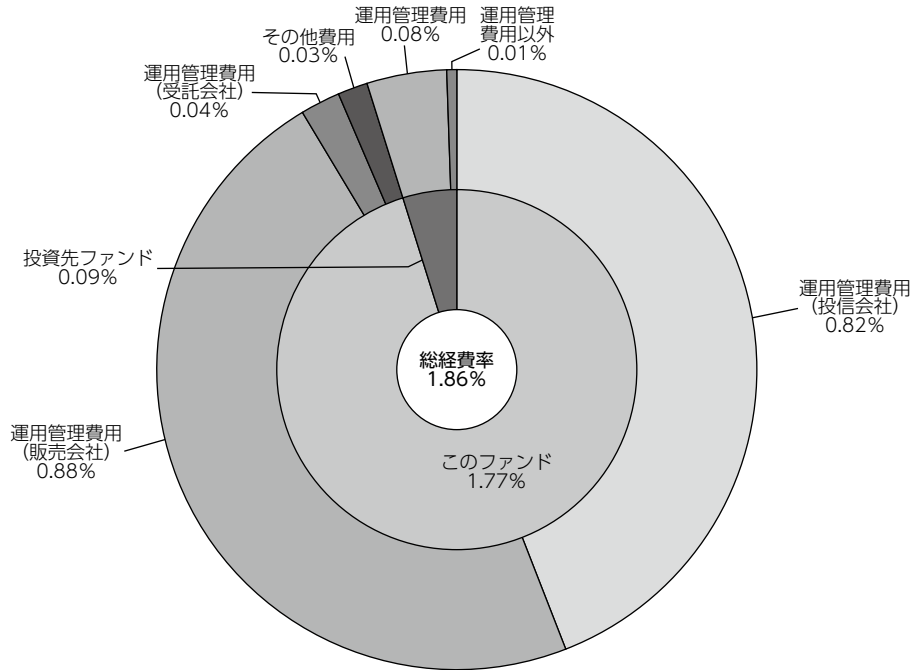
項目	当期 2023/8/8~2024/8/5		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	738円	1.739%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は42,455円です。
（投信会社）	(348)	(0.820)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(372)	(0.875)	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	( 19)	(0.044)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
その他費用	13	0.030	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	( 0)	(0.001)	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	( 8)	(0.019)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	( 4)	(0.010)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	( 0)	(0.000)	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	751	1.769	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報) 総経費率



総経費率 (①+②+③)	1.86%
①このファンドの費用の比率	1.77%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.08%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.01%

- (注1) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
- (注2) ②・③の費用は、当該投資先ファンドの期中の平均純資産総額で除して算出した概算値です。
- (注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
- (注4) 各比率は、年率換算した値です。
- (注5) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
- (注6) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
- (注7) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
- (注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.86%です。

## 最近5年間の基準価額等の推移について

(2019年8月5日～2024年8月5日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2019年8月5日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

	2019年8月5日 期初	2020年8月5日 決算日	2021年8月5日 決算日	2022年8月5日 決算日	2023年8月7日 決算日	2024年8月5日 決算日
基準価額 (円)	24,674	26,825	34,295	34,337	39,569	42,328
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	8.7	27.8	0.1	15.2	7.0
純資産総額 (百万円)	3,396	3,524	4,805	4,887	5,245	5,636

(注) 「分配金再投資基準価額騰落率」および「期間分配金合計 (税込み)」は、表中の直前の決算日または期初からの騰落率および分配金合計 (税込み) です。

※当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数 (参考指数) はありません。

## 投資環境について

### CB（転換社債）市場

当期のCB市場は上昇しました。

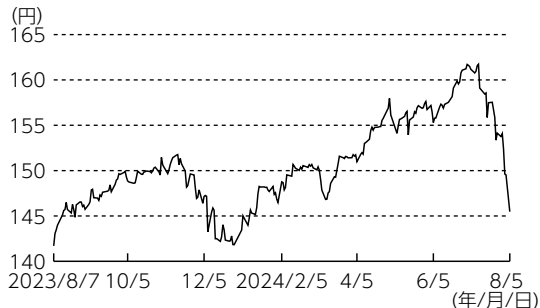
期の序盤、米国における金融引き締め長期化観測や、中国経済の先行き不透明感などの不安材料などが重なる中で、CB市場は軟調な値動きとなりました。また、2023年10月に入り中東情勢が緊迫化したことも相場の重石となりました。しかし2023年11月に入ると、米国のインフレ鈍化と欧米金利の低下などを好感してCB市場は反発に転じました。さらに12月には、パウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長のハト派的な発言などを手がかりに一段高となり、2024年の年明け後もCB市場は良好に推移しました。期の後半、中東情勢の緊張の高まりや、米国における根強いインフレ圧力への警戒感などから、売り圧力が強まる局面もありましたが、米国経済のソフトランディング（軟着陸）期待などに下支えされ、CB市場は底堅く推移しました。期末にかけて、米国経済指標の鈍化などを受けて、同国の景気減速懸念などが広がり、CB市場は下落しました。しかし最終的に、前期末の水準を上回って期を終えました。

### 米ドル／円レートの推移

当期の米ドルは円に対して上昇しました。

期の序盤から2023年10月までは堅調な米国経済などを背景に、FRBが政策金利を「より高く、より長く」維持する姿勢をみせる中、米ドルは円に対して上昇基調で推移しました。2023年の終盤、米国のインフレ鈍化の流れに加え、FRBが金融政策においてハト派的な姿勢を示したことなどを背景に、米ドルは対円で下落しました。しかし2024年の年明け以降は、米国経済が底堅さを示す中、FRBによる利下げ先送り観測が強まった影響や、3月に日本銀行（日銀）がマイナス金利政策を解除したものの、当面の間緩和的な金融環境を維持するとの考えを示したため、米ドルは対円で概ね上昇基調で推移しました。期の終盤、米経済指標の鈍化を背景にFRBが早期利下げを開始するとの見方が強まったことや、日銀が追加利上げを決定したため、日米間の金利差の縮小観測が広がり、期末にかけて急速な円高が進行し、米ドルは対円でそれまでの上昇分の多くを縮小しました。しかし最終的に、前期末比で米ドル高・円安の水準で期を終えました。

米ドル／円レートの推移



## ポートフォリオについて

### 当ファンドのポートフォリオについて

UBS世界CB（米ドルヘッジ）マザーファンドを通じて、主として、世界の転換社債等を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行いました。なお、実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行っておりません。また、期中、マザーファンドの組入れは高位を維持しました。

### マザーファンドのポートフォリオについて

UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）およびUBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）を主要投資対象とし、UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）を高位に組入れました。

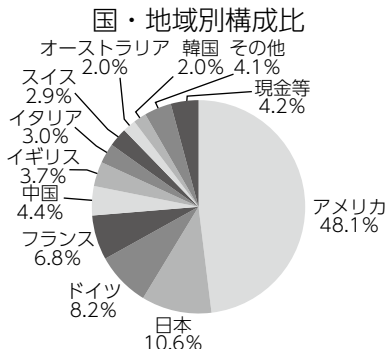
### UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）のポートフォリオについて

主として世界の転換社債等を投資対象とし、元本の確保および資産の流動性に適切に配慮しつつ、収益の獲得を目指した運用を行いました。なお、米ドル建て以外の組入資産については、組入資産が実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行いました。

### UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）の組入資産の内容

（2024年7月31日現在）

※「UBS（Lux）ボンド・シキャブーコンバート・グローバル（EUR）（米ドルヘッジ）」の投資運用会社から入手した情報を元に作成しております。



※構成比は、当該外国投資信託の評価額合計（キャッシュ、先物等含む）に占める割合です。なお、各比率の合計は端数処理の関係上100%とならない場合があります。

※国・地域は、CB等の転換対象とする株式の情報に基づいて分類しています。

## 組入上位10銘柄

銘柄名	国・地域	構成比
PING AN INSURANCE	中国	1.5%
PALO ALTO NETWORKS	アメリカ	1.5%
ALNYLAM PHARMACEUTICALS	アメリカ	1.4%
RIVIAN AUTOMOTIVE	アメリカ	1.3%
BNP(DANONE)	フランス	1.2%
ON SEMICONDUCTOR	アメリカ	1.2%
WESTERN DIGITAL	アメリカ	1.1%
WOLFSPEED	アメリカ	1.1%
SBI HOLDINGS	日本	1.1%
WAYFAIR	アメリカ	1.1%

※構成比は、当該外国投資信託の評価額合計（キャッシュ、先物等含む）に占める割合です。

※国・地域は、CB等の転換対象とする株式の情報に基づいて分類しています。

## UBS短期円金利プラス・ファンド（適格機関投資家向け）のポートフォリオについて

UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、わが国のコマーシャル・ペーパーを含む短期金融商品および内外の円建ての公社債に投資を行い、利息等収入の確保を目指して運用を行いました。当期におきましては、利回りの優位性を勘案しつつ、コール・ローン等での運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、運用の目標となるベンチマークや投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数（参考指数）はありません。

## 分配金について

当期は、市況動向等を勘案し、収益分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## 分配原資の内訳

(1万口当たり・税引前)

項目	第13期
	2023年8月8日~2024年8月5日
当期分配金	－円
(対基準価額比率)	( －%)
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	32,327円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針

### 投資環境の見通し

米国株式は、当面不安定な相場展開が継続すると予想しています。減速する景気のコールドスタートで米金融当局が後手に回っているとの懸念や、大統領選挙に対する不確実性の高まりなどが背景です。ただし、2024年8月序盤の株価急落のきっかけとなった米国景気の後退懸念は最終的に杞憂に終わり、底堅いマクロ環境と好調な業績動向、継続的な利下げ期待や投資の拡大などが、米国株式をサポートするとみています。

米国の景気後退懸念や中東情勢の緊迫化から、欧州株式は当面上値の重い展開が続くと予想しています。欧州中央銀行（ECB）による利下げ期待は欧州株式の追い風ではあるものの、欧州の政治や米国の大統領選を巡る先行き不透明感も、相場の重石になるものとみています。

世界経済がソフトランディングに向かうシナリオを想定し、市場における金融緩和の織り込み度合いを踏まえて、グローバル債券のデュレーションを中立の水準としています。ただし、足元の成長率の鈍化とインフレ高進のリスクにおいてより均衡のとれている状況下で、デュレーションは悲観的な経済シナリオに対するヘッジとして引き続き重要な役割を担っていると思われます。概ね底堅い景気動向と国債発行増などの金利上昇要因と、足元のインフレの緩やかな鈍化を背景とした金利低下要因が拮抗しているため、グローバル債券利回りは引き続きレンジ圏内で推移すると予想しています。

CB市場のバリュエーションは魅力的な水準にあると捉えています。足元のCBの新発債市場は、新たに資金調達を実施する企業や借換え需要の増加などを背景に活発な状況にあります。先行き不透明感の強い市場環境が予想されますが、CBは株価下落局面で下値抵抗力を維持しつつ、株価上昇局面ではそのメリットが期待できることから、引き続き投資魅力度は高いと考えています。こうした環境下で、今後もファンドの特色に沿った運用を行ってまいります。

### 当ファンドの今後の運用方針

UBS世界CB（米ドルヘッジ）マザーファンドを通じて、主として、世界の転換社債等を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行います。なお、実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。また、マザーファンドの組入れは高位を維持する方針です。

## マザーファンドの今後の運用方針

UBS (Lux) ボンド・シキャブーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ) およびUBS 短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け) を主要投資対象とし、UBS (Lux) ボンド・シキャブーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ) を高位に組入れる方針です。

## UBS (Lux) ボンド・シキャブーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ) の今後の運用方針

上記の投資環境を踏まえ、主として世界の転換社債等を投資対象とし、元本の確保および資産の流動性に適切に配慮しつつ、収益の獲得を目指した運用を行う方針です。なお、米ドル建て以外の組入資産については、組入資産が実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行います。

## UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け) の今後の運用方針

UBS短期円金利プラス・マザーファンドへの投資を通じて、短期金融市場の状況を注視しつつ、コール・ローン等で運用する予定です。

## お知らせ

---

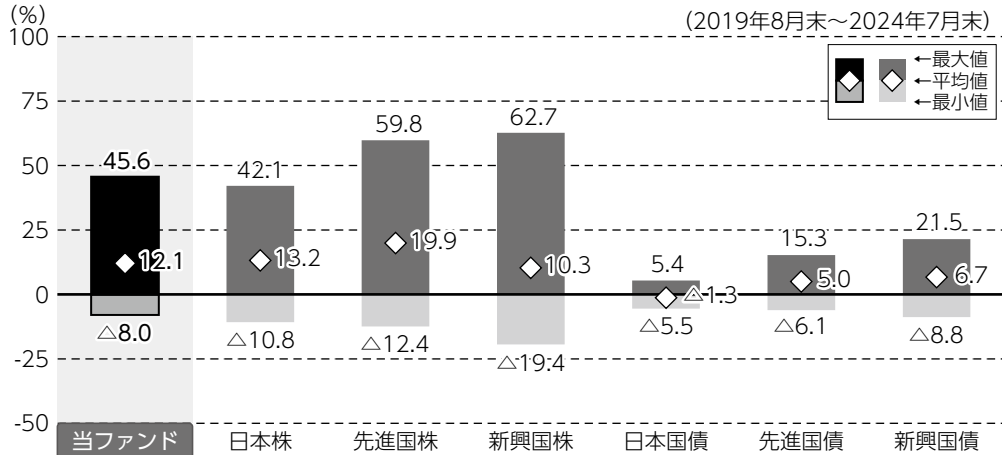
該当事項はありません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／その他資産（転換社債）		
信託期間	無期限		
運用方針	マザーファンドを通じて世界の転換社債等（転換社債の他、交換可能証券、ワラント付債券、転換権付債務証券を含みます。）を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行い、中期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。		
主要投資対象	UBS世界CBファンド 米ドルヘッジコース	UBS世界CB（米ドルヘッジ）マザーファンドを主要投資対象とします。	
	UBS世界CB （米ドルヘッジ） マザーファンド	投資信託証券への投資を通じて、世界の転換社債等に投資を行います。	主として世界の転換社債および、交換可能証券、ワラント付債券、転換権付債務証券を投資対象とします。
		UBS（Lux）ボンド・シキャ プ・コンバート・グローバル （EUR）（米ドルヘッジ）	
UBS 短期円金利プラ ス・ファンド（適格機 関投資家向け）	UBS短期円金利プラス・マザーファンド受益証券、ならびに内外の円建て公社債を主要投資対象とします。		
運用方法	UBS世界CBファンド 米ドルヘッジコース	世界の転換社債等を主要投資対象とする投資信託証券に実質的に投資を行います。	
	UBS世界CB （米ドルヘッジ） マザーファンド	主として世界の転換社債等（転換社債の他、交換可能証券、ワラント付債券、転換権付債務証券を含みます。）に実質的に投資を行います。 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。	
		UBS（Lux）ボンド・シキャ プ・コンバート・グローバル （EUR）（米ドルヘッジ）	主として世界の転換社債等を投資対象とし、元本の確保および資産の流動性に適切に配慮しつつ、収益の獲得を目指して運用を行います。 なお、米ドル建て以外の組入資産については、組入資産が実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行うことを基本とします。
UBS 短期円金利プラ ス・ファンド（適格機 関投資家向け）	直接投資を行う場合の公社債については、原則として、購入時においてS&P、ムーディーズ、格付投資情報センター、日本格付研究所のうち1社以上の格付機関より、Aa3/AA-以上の長期格付けが付与されたものに投資を行います。また、購入時において残存期間が2年以内の公社債とします。 UBS短期円金利プラス・マザーファンドの組入れについては、50%以上を維持することを基本とします。 <UBS短期円金利プラス・マザーファンド> 代表的銀行の3ヵ月大口預金金利を上回る信託財産の安定的な成長を目指して運用を行います。 原則として、購入時において短期格付はA-1/P-1/a-1/J-1以上、長期格付はA3/A-以上の格付けが付与されたものに投資を行い、ポートフォリオの平均デュレーションは、原則として一定の範囲内（原則として0～1.0年の範囲）で変動させます。		
分配方針	毎決算時（毎年8月5日、休業日の場合には翌営業日）に、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、委託者が市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、委託者の判断で、分配を行わないことがあります。収益の分配にあてなかった利益については、運用の基本方針に基づいて元本部分と同一の運用を行います。		

※資金動向、信託財産の規模および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- \* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- \* 2019年8月から2024年7月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- \* 騰落率は直近の月末から最大60ヵ月さかのぼった算出結果であり、当ファンドの決算日に対応したものではありません。
- \* 騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額に基づいて計算した騰落率と異なる場合があります。

## 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	東証株価指数 (TOPIX) に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCIインデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI国債	NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円換算ベース)	FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円換算ベース)	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所および各指数のデータ提供者は、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

## ファンドデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

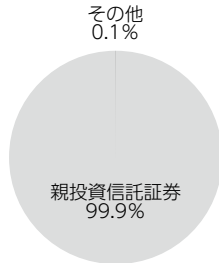
(2024年8月5日現在)

組入上位ファンド（銘柄数：1銘柄）

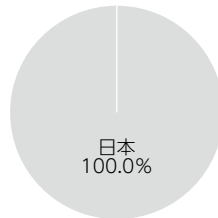
銘柄	比率 (%)
UBS世界CB (米ドルヘッジ) マザーファンド	99.9

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

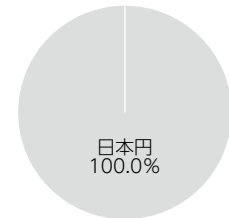
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



(注1) 「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は当ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

### 純資産等

項目	第13期末 2024年8月5日
純資産総額	5,636,968,231円
受益権総口数	1,331,749,042口
1万口当たり基準価額	42,328円

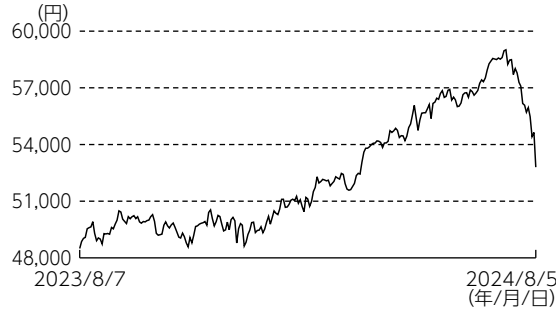
(注) 当期（第13期）中における追加設定元本額は86,526,501円、同解約元本額は80,425,735円です。

(2024年8月5日現在)

## 組入上位ファンドの概要

## ◆UBS世界CB (米ドルヘッジ) マザーファンド

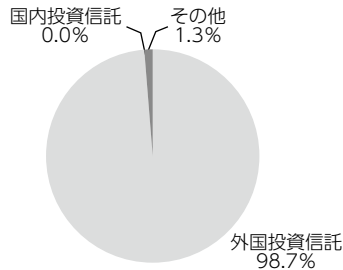
基準価額の推移 (2023年8月7日～2024年8月5日)



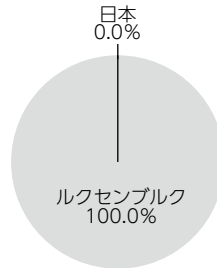
組入上位ファンド (銘柄数：2銘柄)

銘柄名	比率(%)
UBS (Lux) ボンド・シキャプ・コンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ)	98.7
UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け)	0.0

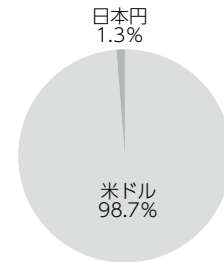
## 資産別配分



## 国・地域別配分



## 通貨別配分



(注1) 「基準価額の推移」はマザーファンドの直近の計算期間、「組入上位ファンド」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はマザーファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位ファンド」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率はマザーファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 「国・地域別配分」は、発行国・地域または投資国・地域を表示しております。

(注4) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、「運用報告書 (全体版)」をご覧ください。

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期 2023/8/8~2024/8/5	
	金額	比率
その他費用 (保管費用)	1円 (1)	0.001% (0.001)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	1	0.001

※期中の平均基準価額は52,523円です。

(注1) 「1万口当たりの費用明細」は、マザーファンドの直近の計算期間のもので、費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

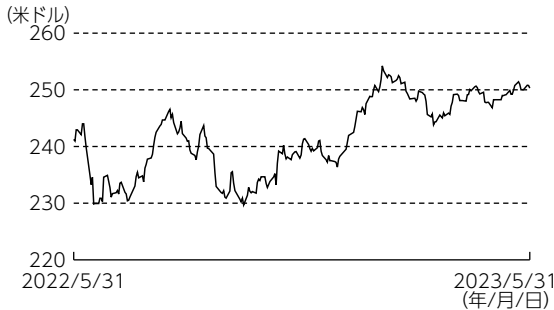
※当マザーファンドの運用経過につきましては、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。

## マザーファンドの組入上位ファンドの概要

(2023年5月31日現在)

## ◆UBS (Lux) ボンド・シキャブーコンバート・グローバル (EUR) (米ドルヘッジ)

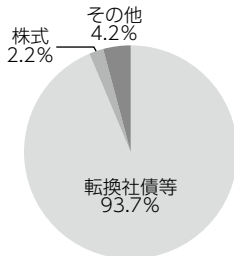
基準価額の推移 (2022年5月31日～2023年5月31日)



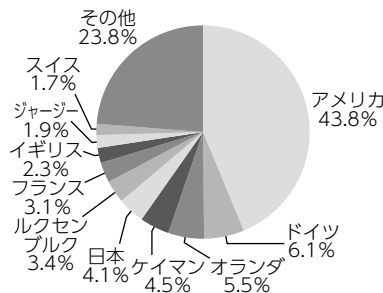
組入上位10銘柄 (銘柄数：141銘柄)

銘柄名	種別	通貨	比率(%)
ABU DHABI NATIONAL OIL CO-REG-S 0.70000% 21-04.06.24	転換社債等	米ドル	1.56
PALO ALTO NETWORKS INC-144A 0.37500% 20-01.06.25	転換社債等	米ドル	1.54
AKAMAI TECHNOLOGIES INC 0.37500% 20-01.09.27	転換社債等	米ドル	1.52
ALNYLAM PHARMACEUTICALS INC-144A 1.00000% 22-15.09.27	転換社債等	米ドル	1.44
BNP PARIBAS ISSUANCE BV/DANONE EURO.25 21-13.12.24	株式	オランダ	1.24
WAYFAIR INC 1.00000% 19-15.08.26	転換社債等	米ドル	1.20
DEXCOM INC 0.75000% 18-01.12.23	転換社債等	米ドル	1.19
ON SEMICONDUCTOR CORP 1.62500% 17-15.10.23	転換社債等	米ドル	1.18
OKTA INC 0.12500% 20-01.09.25	転換社債等	米ドル	1.08
BHARTI AIRTEL LTD-REG-S 1.50000% 20-17.02.25	転換社債等	米ドル	1.08

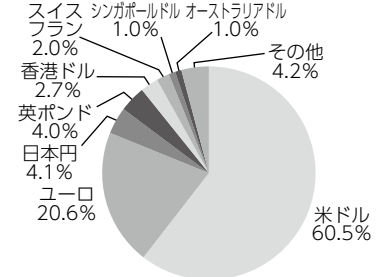
## 資産別配分



## 国・地域別配分



## 通貨別配分



※投資対象資産が実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行っています。

(注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位10銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 「国・地域別配分」は、発行国・地域または投資国・地域を表示しております。また、「その他」には預金およびその他資産（負債控除後）が含まれます。

(注4) 「通貨別配分」はポートフォリオ部分について表示しており、預金およびその他資産（負債控除後）は「その他」に含めて表示しております。

(注5) 上記のポートフォリオの内容は、監査済みアニュアルレポートの情報に基づき作成しています。

## 1万口当たりの費用明細

当該情報は開示されていないため、記載しておりません。



## マザーファンドの組入上位ファンドの概要

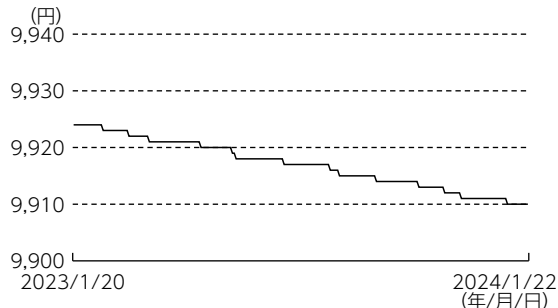
(2024年1月22日現在)

## ◆UBS短期円金利プラス・ファンド (適格機関投資家向け)

基準価額の推移 (2023年1月20日～2024年1月22日)

組入上位銘柄

2024年1月22日現在、有価証券等の組入れはありません。

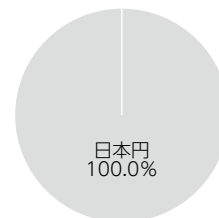
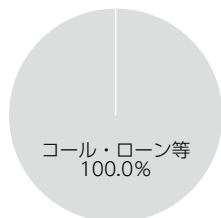


資産別配分

国・地域別配分

通貨別配分

2024年1月22日現在、有価証券等の組入れはありません。



(注1) 「基準価額の推移」は組入ファンドの直近の計算期間、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」は組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注2) 「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「通貨別配分」の比率は組入ファンドの純資産総額に対する評価額の割合、「国・地域別配分」の比率は組入ファンドのポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 上記のポートフォリオの内容は、組入れられたファンドの投資資産を表示しております。なお、直接投資しているのはマザーファンドですが、「組入上位銘柄」、「資産別配分」、「国・地域別配分」、「通貨別配分」はその先の投資資産を表示しております。

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期 2023/1/21～2024/1/22	
	金額	比率
信託報酬	4円	0.044%
(投信会社)	(1)	(0.011)
(販売会社)	(0)	(0.001)
(受託会社)	(3)	(0.032)
その他費用	0	0.003
(その他)	(0)	(0.003)
合計	4	0.047

※期中の平均基準価額は9,917円です。

(注1) 「1万口当たりの費用明細」は、直近の計算期間のものです。費用項目の概要については、2ページ「1万口当たりの費用明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。